

黒沢洞合自然公園整備検討委員会 第3回資料

基本計画図の検討

1. 整備方針と目指す公園像	1
2. 土地利用方針の設定	2
3. 基本計画平面図の検討	3
基本計画平面検討図	3
動線等計画検討図	4

令和5年9月19日

株式会社 KRC

1. 整備方針と目指す公園像

黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針

■ コンセプト

里山の自然を保全・創造し、また、里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもも大人も未知の体験に胸を弾ませ、里山の自然を楽しみ活用するビオトープ型の自然公園。

■ 整備目的

次世代への環境遺産として継承
里山の自然環境に、子どもも大人も容易に触れ合い経験できる場

■ 整備方針

【全体】
広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園

【方法】

南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加
子どもが必要と考える自然公園の提案
市民が関わる公園づくり
子どもによる植樹等

【構成】

○自生する生物が集まり繁殖しやすい空間
○最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察
○昆虫、植物の採取を自由にできるように。
○環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用。

【動線】

公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】

里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。
↑トイレは最低限設ける必要がある

【その後の活用】

市民が気軽に里山の自然に触れ合える場として活用。
学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用。

目指す公園像 『〇〇が〇〇できる公園』

その実現に必要なハードとソフト

〇〇なので
背景・理由・目的

〇〇(誰)が
ターゲット

〇〇できる公園
できること

1. 黒沢に自生する多様な生き物たちが寄ってきたくなる公園

H16～18年度(H19年
3月竣工)整備でいろいろ
な生き物呼び寄せた

トンボ クワガタ
カブト チョウ 野鳥
猛禽類

寄ってきたくなる場所・池
餌場になる

2. 人と自然のつながりに対する理解を深める場となる公園

昔はたんぼだった土地

子どもたち・自然とのふれ
あいを深めたい次世代
自然の好きな人たち

たんぼの面影を感じる
四季を感じる
昼夜の自然観察

3. 子どもたちが「自然」のなかでの非日常の体験や時間を過ごせる公園

ビオトープ型の自然公園
開けた空のある空間

子どもたち・自然とのふれ
あいを深めたい次世代
自然にふれあう機会が
少ない人

観察と合わせて池に入る
バードウォッチング
川に近づける
そり遊び 星空観察

4. 東西2000m級の山々の美しい景色に出会い昔の洞合を感じる公園

東西2000m級の山を
眺められる場所
三郷最高峰の黒沢山

足の不自由な方(高齢者等)
や車椅子を使用した人も

借景に感動
景色を通じて自然とふれ
あう

5. 様々な人が安心して豊かな自然のなかで過ごせる公園

公園が広がることで
来る人たちを受け入れ
るには駐車場不足

自然を求めて車で訪れる
様々な人

すれ違いができ安心して
車を停めることができる

どあい冒険くらの活動
時も駐車場不足気味
既存の便所までの距離
が遠くなる

自然にふれあう機会が
少ない人
教育保育機関の団体利用者

安心して公園で過ごせ
る空間(トイレ等)

ハード

ソフト

◆二段目か三段目に池(水辺)

◇命の連鎖、つながりを伝える場としての活用

○牧草などはなるべく回避

○外来種は取り除き現地に生育する在来種の植物を利用

◆木の実が付き、動物が来る植物を植栽

◆広葉樹、落葉樹の植栽

◆夏に日陰になるような樹木の植栽

◆四季おりおりの花、野草

◇暮らしとのつながりを学べる場としての利用

◆昔たんぼだったを想起させる造成。歴史を感じる要素を残置。

◇公園周りの森林の継続的な手入れと間伐材等の活用

◆段階的に環境をつくっていきける水辺・湿性環境(たんぼ・池・ほたる水路等)

◆広場・草原性の環境

(星空がみえる広場・そり遊び可能な広場)

◇持続性ある維持管理体制づくり
・目指す環境に向かって工夫しながら環境管理できる体制・しくみの構築
・参加型の維持管理を通じたつながりづくり

・段階的に環境をつくっていく体制やし
くみ(市民参加での植栽等)

◆現在の駐車場の段を見晴らし台的空間にあわせて足の悪い人でも座れる自然石ベンチの設置

◆黒沢山と美ヶ原・鉢伏山を借景とした広場(東側の樹木の伐採含む)

◇ビューポイントの選定・発信
例)4段目からの黒沢山の眺望

◆駐車場の拡大(マイクロバス進入可能な縦断勾配の駐車場導入路もあわせて検討)

◆トイレ新設(中央の駐車場の拡大と一体で)バリアフリー型のバイオトイレ

◆足の不自由な方にも配慮したスロープや園路

◆車の退避スペースのある進入路(ただし公園区域のみ)

◇クマ、サル等の有害鳥獣への対応(黒沢川上流部での対策、サル追い)

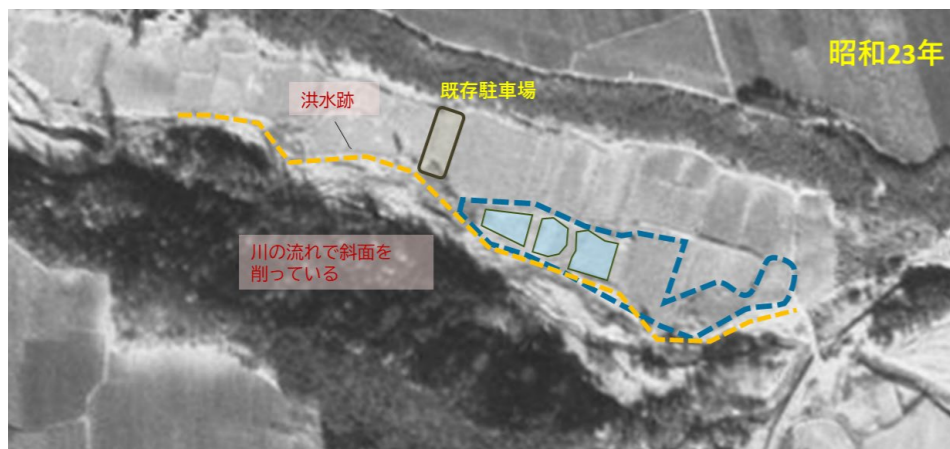
2. 土地利用方針の設定

土地利用方針

- ①中央の駐車場を拡張するとともに、この近くにトイレを整備。既設公園のトイレも維持。
- ②既設駐車場の一带で見晴しポイントを周遊できる動線を確保
- ③4段目に駐車場としても利用可能な形で広場を確保(イベント対応)
- ④過去の土地利用をモチーフに、川寄りの南側エリアに湿性環境を創出(候補: 棚田形状の湿地・池・ホタル水路等)し、北側には草原的環境を整備
- ⑤3段目のエリアの道路沿いには待避所を設け、車の移動をしやすくするとともに、下車・入園できるスペースを設け、緩やかな勾配の動線に接続



圃場整備前の時期の空中写真



3. 基本計画平面図の検討

基本計画平面検討図

【住民説明会提示原案】



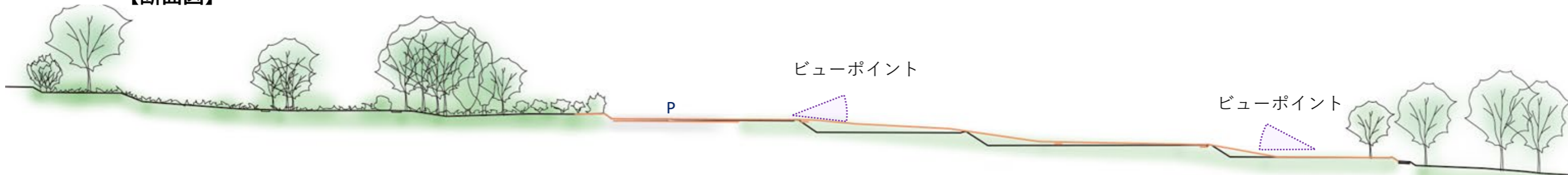
◆南農生・検討委員会からの提案を踏まえた拡張整備の工夫

- ※1 中央の駐車場を拡張にあわせてマイクロバスなどの団体利用車両が近づきやすい入口を整備
- ※2 道路沿いには待避所を設け下車・入園できるスペースを設け、緩やかな勾配の園路に接続
- ※3 現状では駐車場で水辺が分断されるような形となっているため、田んぼビオトープ等の湿性環境エリアへの通水を南寄りの区間に切り替え、水辺のつながりに一体感を持たせる
- ※4 北側の草地エリアでは、平坦面だけでなく芝そりなどでもできるような勾配のある斜面も一部に確保。傾斜や地形に変化をつけて利用と環境創造の両面から多様さをもたせた草地の空間を形成
- ※5 園路の交差部の広場は必要最小限にする

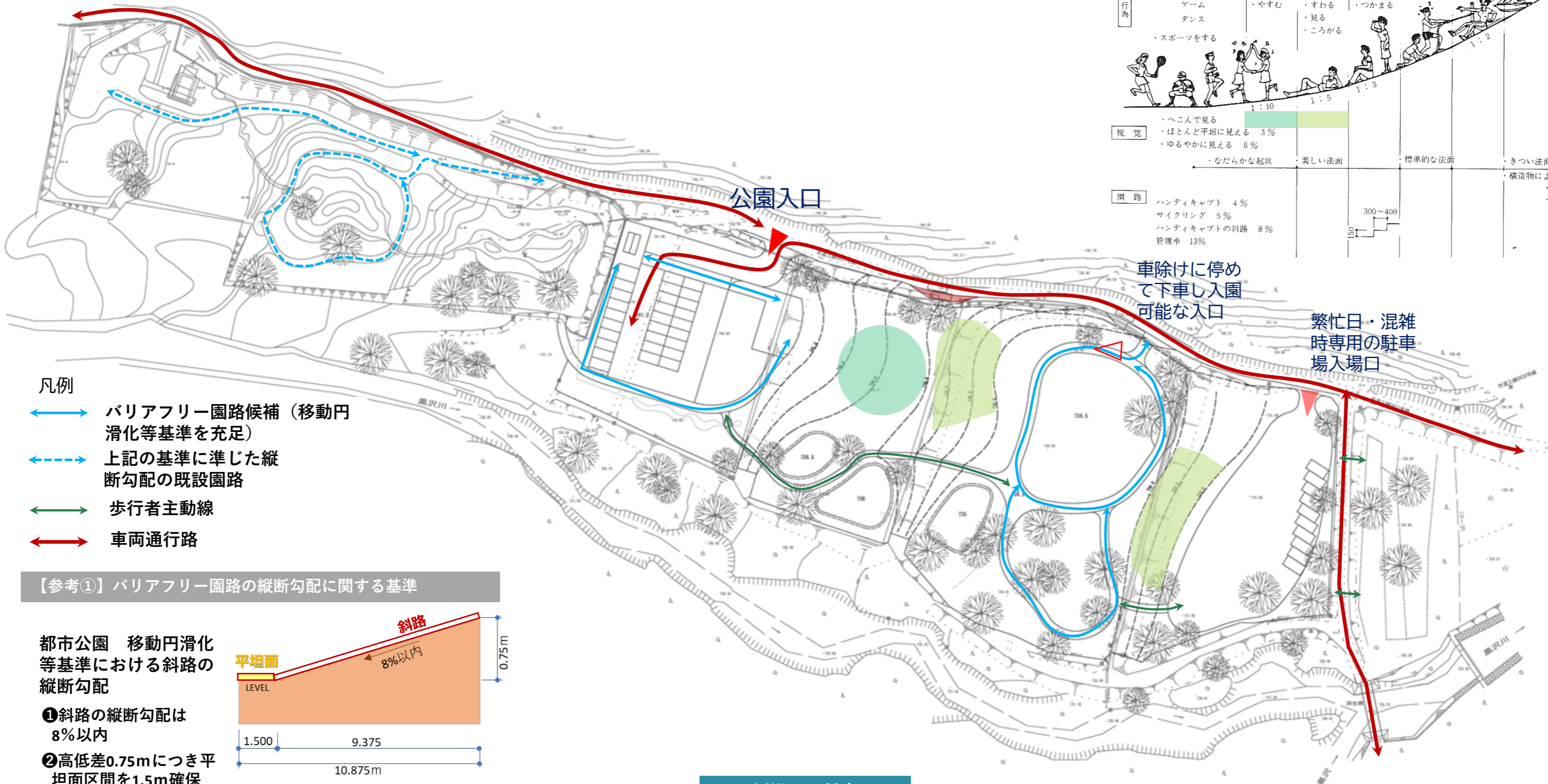
◆造成・広場整備の方針

- 5つの平坦面と畔の段差が連なる地形の名残を残しつつ、利用や眺め、環境を考慮した土地利用の方針(前頁)を踏まえて造成。
- 上段の駐車場を主の入口とし、4段目のエリアはイベント利用時等の際の臨時駐車場として利用。
- 各段にシンボルツリーを定めて植栽。
- 大きな高低差が生じる箇所では石積み等も利用し、生き物のすみかにもなる空間づくりを展開。
- 進入路の南側の斜面となる一帯で、利用することもちの安全確保と修景を兼ねて仕切りの植栽等を設ける。

【断面図】



動線等計画検討図

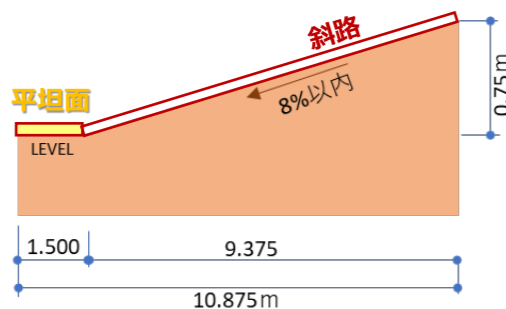


- 凡例
- バリアフリー園路候補（移動円滑化等基準を充足）
 - 上記の基準に準じた縦断勾配の既設園路
 - 歩行者主動線
 - 車両通行路

【参考①】バリアフリー園路の縦断勾配に関する基準

都市公園 移動円滑化等基準における斜路の縦断勾配

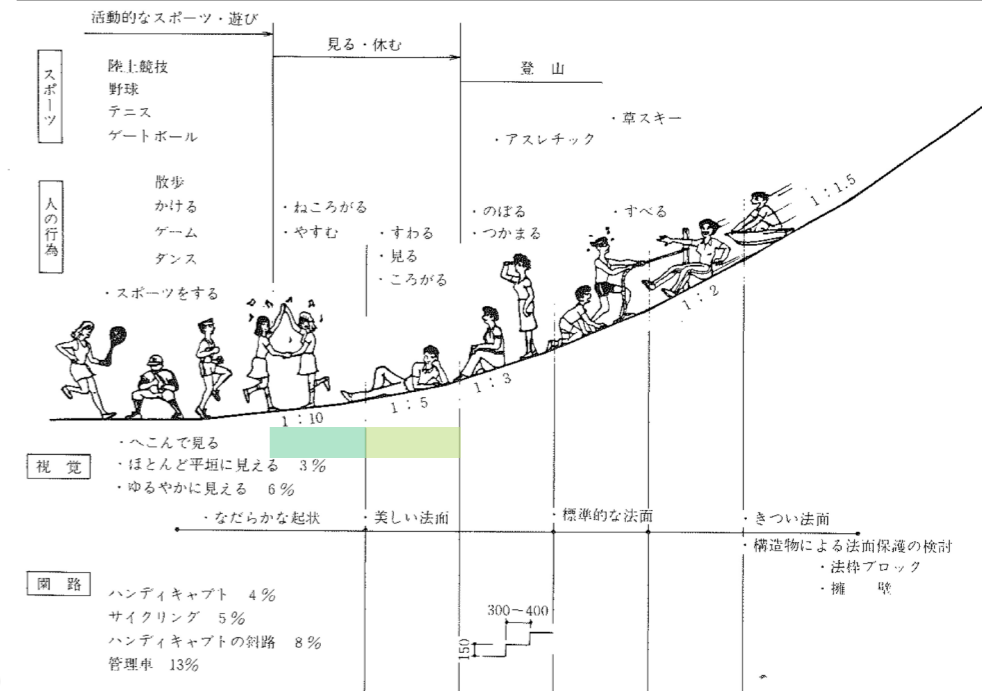
- 斜路の縦断勾配は8%以内
- 高低差0.75mにつき平坦面区間を1.5m確保



【参考②】環境に調和した舗装の例（左から自然石、木チップ、土系舗装）



【参考③】広場の勾配と活動の関係



川沿いの対応

- 河川管理者からは、公園付近一帯は安全確保と利用を念頭においた河川整備を行う区間ではないことを確認。
- あくまで河川の自由使用の範疇で個人の責任で川に近づくことが許容される区間として認識。
→安全管理の責任上、公園側から積極的な誘導路は付けにくい条件
- 北黒沢川沿いについては河川区域の境界が明確に定まっていないため、今後、河川管理者である長野県と継続して調整を進める。

